

# ウラジオストク・フォーラム創設にあたって

安全保障問題研究会会長  
青山学院大学国際政経学部教授  
袴田 茂樹

日本側は安保研とユーラシア 21 研究所、ロシア側はロシア科学アカデミー極東支部幹部会、同支部歴史・考古学・民俗学研究所、沿海地方議会を主催者として、新たな日露フォーラムが創設され、第 1 回のシンポジウムがウラジオストクで開かれた。フォーラムの正式の名称は、「新しい国際秩序と太平洋地域」ウラジオストク・フォーラム（2010）で、創設のイニシアチブを取ったのは、それぞれの組織の代表、つまり日本側は袴田茂樹と吹浦忠正、ロシア側はV・ラーリン、V・セルギエンコ、V・ゴルチャコフである。駐ウラジオストク日本総領事館の山田淳総領事からも全面的な支援を得た。参加者名簿と 2 日間にわたるシンポジウムのテーマについては本報告に掲載の通りであるが、結果的にこの新たなフォーラムの創設に双方が満足し、日本と極東地域で毎年交互に開催しようという合意が成立した。このフォーラム創設の意図とその経緯について、簡単に説明しておきたい。

安保研は 1996 年からサハリン行政府とサハリン・フォーラムをほぼ毎年続けてきたが、サハリン側の政治的、その他の事情で一昨年の開催を最後に、継続が不可能になった。そこでサハリンではなくウラジオストクを中心に、将来的にはハバロフスクなどの参加も念頭に置いて、新しいフォーラムを創設しようということになった。安保研、ユーラシア 21 研究所は 1973 年以来、モスクワと日露専門家対話（専門家会議）を続けている。新たなフォーラムを極東で創設したのは、日露の関係を完全に正常化し両国民の政治、経済、文化、学術その他の分野の交流を活発化するためには、日本との関係が深い極東との交流と相互理解の深化が極めて重要だと考えるからである。したがってこのフォーラムは、単なる学者の学術シンポジウムではなく、実践的な課題を念頭に政界、官界、実業界、マスコミ界などの代表も加えた幅広いパイプにする必要があった。

昨年 7 月と 9 月に、袴田がウラジオストクを訪問して、ラーリン氏にその意図を説明し、暫定的に彼の賛同を得た。その際、ラーリン氏の紹介でセルギエンコ氏、ゴルチャコフ氏とも交流し、彼らにもわれわれの意図を伝えた。今年の春、ラーリン氏夫妻が訪日した際、われわれは正式に新フォーラムの設立に合意し、早速 9 月の第 1 回シンポジウム開催を具体化するための打ち合わせを行った。その時既にラーリン氏は、昨年の袴田の提案があったので、今年ウラジオストクでシンポジウムを開催するための予算措置は講じていた。会議は当初は科学アカデミーの講堂かラーリン氏の研究所の会議室で行うことも検討されたが、最終的には地方議会・行政府の建物の大きな会議室で行われることになった。参加者のレベルの高さだけでなく、このような面でも、ウラジオストク側としては最高の対応を示してくれたことになる。

会議の内容であるが、第 1 セッションでは極東の安全保障とアジア太平洋地域の国際関係を論じた。私が注目した発表は、極東国立工科大学政治学部長の S・ペフツォフ氏の発言だ。彼は、アジア太平洋地域の安定のためには、この地域における米国のプレゼンスが重要であるとして、ナショナリズムと反アメリカ主義の台頭に懸念を示した。この見解は

ロシア極東の専門家の一般的な見解かとの質問に対しては、必ずしも一般的ではないという回答であった。中国に対して日露がいかに対応すべきかというテーマで議論もなされ、彼らの中国認識が伺われて興味深いものであった。第 2 セッションでは、経済協力問題が中心テーマとなった。ロシアの投資環境の悪さや、極東の経済特区がなぜうまく機能しないのかという点についても率直な意見が出された。第 3 セッションでは、文化交流、特に日本人の対露意識と、ロシア人の対日意識の違いが議論の中心となった。この問題に関連して、日本人の対露意識の悪さを改善するためには、また日露の関係全体を改善するためにも、北方領土問題の解決が重要であるということが、日本側から強調された。北方領土問題を中心とするシンポジウムではなかったが、この問題の解決に対する日本側の熱意は十分伝わったものと思われる。

ウラジオストク側のこの新しい会議に対する印象であるが、日本側の参加者が皆、極めて率直でプロフェッショナルな発言をしたことに強い印象を受けたとのことであった。日本側としても、両者の率直な対話に十分な満足を得た。公式的な発言や外交辞令は抜きにして、率直な意見交換をしようという会議の目的は、十分達せられたものと思われる。会議を非公開にしたのも、そのために役立ったと思われる。

会議終了後、会議主催者、参加者でもあった V・ゴルチャコフ州議会議長および I・プシカリョフ・ウラジオストク市長を訪問した。この場でも単なる表敬訪問に終わることなく、実質的かつ率直な意見交換ができた。またチャーター船で 2012 年の APEC 首脳会議開催場所を海上から見学する機会も得た。現在ウラジオストクの各所で、そのための突貫工事が行われている。

今回のフォーラムの成功は、この会議に参加して下さった方々はもちろん、積極的にサポートして下さった山田総領事を始めとする日本外務省の関係者、また安保研やユーラシア 21 研究所の活動を日頃支援して下さっているの方々のお蔭である。ご報告と共に、皆様に心から御礼申し上げたい。



## 「新しい国際秩序と太平洋地域」

### ウラジオストク・フォーラム（2010）報告

近年ロシアは、極東・東シベリア地域の開発、あるいはロシアのアジア太平洋地域への統合という課題に非常に大きな関心を払うようになってきている。2007年には2兆円規模の極東・東シベリア地域の開発プログラムが策定され、2012年にAPEC首脳会議がウラジオストク市で開催されることも決まった。

本格的に極東・東シベリア地域へのテコ入れを開始したロシアにとっては、中国のみが同地域での影響力を伸張させることを避けたいという意味においても、また同地域のインフラ整備に日本のハイテク技術を導入したいという思惑からも、日本が果たし得る役割への期待は大きい。地元関係者にとってはなおさらである。

こうした時期に、日本とロシア極東地域との間での知的交流を促進し、相互理解を深めることは、ひいては北方領土問題をはじめとする両国間の外交課題の解決にもつながり得る。そこで、安保研はロシア極東、特に沿海地方との間で、民間同士のトラック2会合としての新しい対話の枠組みを立ち上げることを決定した。この枠組みは「新しい国際秩序と太平洋地域」ウラジオストク・フォーラム（以下、フォーラム）と名付けられ、この度9月20日、21日の両日、まさにAPEC開催に向けて急ピッチで開発が進められるウラジオストク市にて、その第1回目会合が開催されることとなった。

フォーラムの準備・運営においては、日本の特定非営利活動法人ユーラシア21研究所（吹浦忠正理事長）から全面的な協力を得たほか、ロシア側からはロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史・考古学・民俗学研究所（ヴィクトル・ラーリン所長）、ロシア科学アカデミー極東支部（ヴァレンチン・セルギエンコ会長）、ロシア沿海地方議会（ヴィクトル・ゴルチャコフ議長）の協力を得た。

フォーラムには、日露双方より学者や専門家、政治家やオピニオン・リーダーなど多彩な顔ぶれにご参加いただき、政治・経済・文化といった分野での相互協力の可能性、中国問題と東アジアの安全保障、北方領土問題とお互いの国に対するイメージの問題など、さまざまなテーマについて非常に活発な議論が交わされた。

なお、フォーラムは、双方が率直な意見を述べ合えるよう非公開を原則として行ったため、各セッションでの基調報告や発言の内容についてここで触れることはできないが、会議の概要について以下のとおり簡単にご報告したい。



「新しい国際秩序と太平洋地域」ウラジオストク・フォーラム（2010）

## ◎「新しい国際秩序と太平洋地域」ウラジオストク・フォーラム（2010）参加者

日本側代表団およびロシア側の参加メンバーは以下のとおりである。このほか、山田淳・駐ウラジオストク日本国総領事がフォーラムにご参加くださった。

### 日本側代表団（敬称略、団長以下は 50 音順）

袴田 茂樹	日本側代表、安全保障問題研究会会長、青山学院大学国際政経学部教授
伊奈 久喜	日本経済新聞特別編集委員
神谷 万丈	防衛大学校総合安全保障研究科・国際関係学科教授
河東 哲夫	早稲田大学商学研究科大学院客員教授、東京財団上席研究員、元駐ウズベキスタン大使
斎藤 元秀	杏林大学総合政策学部教授
清水 美和	東京新聞・中日新聞論説副主幹、元中国総局長
新藤 義孝	衆議院議員、自民党
内藤 泰朗	SANKEI EXPRESS 副編集長、元モスクワ支局長
名越 健郎	時事通信社仙台支社長、元モスクワ支局長
原 秀樹	国際交流基金日本研究・知的交流部、欧州・中東・アフリカチーム長
吹浦 忠正	特定非営利活動法人ユーラシア 21 研究所理事長、元東京財団研究推進担当常務理事
藤田 幸久	参議院議員、民主党
布施 裕之	読売新聞社調査研究本部主任研究員、元モスクワ支局長

### ロシア側参加者（敬称略、ロシア語アルファベット順）

アヴデユフ Y.A.	独立非営利組織「アジア太平洋移住プロセス研究所」所長、経済学修士
アガフォン	ロシア外務省駐ウラジオストク代表部
アドリアノフ A.V.	ロシア科学アカデミー極東支部副会長、海洋生物学研究所所長、ロシア科学アカデミー正会員
アフォニン B.M.	ロシア科学アカデミー極東支部歴史学研究所上級研究員、歴史学修士
ボチャロフ L.N.	太平洋漁業研究センター（TINRO センター）所長
ゴルチャコフ V.V.	沿海地方議会議長、工学博士、教授
ディカリョフ V.P.	極東国立大学国際交流担当副学長
コジェヴニコフ V.V.	ロシア科学アカデミー極東支部歴史学研究所日本研究センター所長、歴史学修士
クリチン Y.N.	ロシア科学アカデミー極東支部副会長、ロシア科学アカデミー極東支部オートメーション・制御フロー研究所所長
ラーリン V.L.	ロシア科学アカデミー極東支部歴史学研究所所長、歴史学博士、教授
ラーリナ L.L.	歴史学研究所上級研究員
ノモコノフ V.A.	極東国立大学法学研究所副所長、法学博士
オストロフスキー A.	「ノーヴァヤ・ガゼータ」紙ウラジオストク支局編集長

ペスツォフ S.K.	極東国立工科大学太平洋政策・法律研究所政治学部学部長、政治学博士
サプリーキン V.G.	ウラジオストク市役所国際関係・観光局局长
セヴァスチャノフ S.V.	ウラジオストク国立経済・サービス大学教授、政治学博士、教授
セメニヒン Y.N.	極東海洋船舶研究所理事長
セルギエンコ V.I.	ロシア科学アカデミー極東支部会長、ロシア科学アカデミー正会員
ステグニイ V.A.	公開型株式会社「Terneiles (テルネイレス)」副社長
フォキン N.I.	極東国立大学講座主任、経済学修士
フジャトフ T.D.	極東国立大学講座主任、経済学修士

この他、在ウラジオストク日本国総領事館およびロシアの関係機関から、数名がオブザーバーとして参加された。

### ◎「新しい国際秩序と太平洋地域」ウラジオストク・フォーラム (2010) 日程

会議は、3つのセッションに区切って行われた。それぞれのセッションのテーマは次のとおりである。

- ・ 東アジアの国際関係および安全保障における基本的問題とアジア太平洋地域におけるロシアのプレゼンス
- ・ アジア太平洋地域における経済協力および経済的矛盾の中での日本とロシア
- ・ 太平洋におけるロシアと日本：地域間相互作用のベクトル

各セッションでは、初めに日露双方の報告者が基調報告と副報告を行い、それをもとに自由討論形式にて議論が進められた。

また、会議1日目終了後には、ロシア側主催者であるヴィクトル・ラーリン氏が、会議2日目終了後には、山田淳・駐ウラジオストク日本国総領事が、日露双方の参加者をご招待してのレセプションを開いてくださった。

会議プログラムおよび各セッションでの報告者は次のとおりである。

#### 9月20日(月) 「ウラジオストク・フォーラム (2010)」 1日目

##### 10:00~10:20 開会式

挨拶	ゴルチャコフ V.V.	沿海地方議会議長、工学博士、教授
	セルギエンコ V.I.	ロシア科学アカデミー極東支部会長、ロシア科学アカデミー正会員
	山田淳	駐ウラジオストク日本国総領事
	アガフォン	ロシア外務省在ウラジオストク代表部

##### 10:20~10:40 総会

	ラーリン V.L.	ロシア科学アカデミー極東支部歴史学研究所所長、歴史学博士、教授
	袴田茂樹	安全保障問題研究会会長、青山学院大学教授

10:40~14:30 (12:20~13:20 昼食)

第1セッション：「東アジアの国際関係および安全保障における基本的問題とアジア太平洋

### 地域におけるロシアのプレゼンス」

共同議長：ラーリン V.L. ロシア科学アカデミー極東支部歴史学研究所所長、歴史学博士、教授  
袴田茂樹 安全保障問題研究会会長、青山学院大学教授

基調報告および副報告：

ゴルチャコフ V.V. 沿海地方議会議長、工学博士、教授  
「ロシア極東の発展戦略について」  
ペスツォフ S.K. 極東国立工科大学政治学部学部長、政治学博士  
「東アジア：好ましい変化と安全保障上の脅威」  
神谷万丈 防衛大学校総合安全保障研究科・国際関係学科教授  
「北東アジア地域秩序のこれから—日本の“自己抑制”  
をめぐって」  
清水美和 東京新聞・中日新聞論説副主幹、元中国総局長  
「中国：軍がリードする対外強硬路線」

14:30~17:30

### 第2セッション：「アジア太平洋地域における経済協力および経済的矛盾の中での日本とロシア」

共同議長：バクラノフ P.Y. ロシア科学アカデミー極東支部太平洋地理学研究所所長、ロシア  
科学アカデミー正会員

吹浦忠正 特定非営利活動法人ユーラシア 21 研究所理事長

基調報告および副報告：

フジヤトフ T.D. 極東国立大学世界経済講座主任、経済学修士  
「アジア太平洋地域における経済協力および経済的矛盾の  
中でのロシアと日本」  
ステグニイ V.A. 公開型株式会社「Terneiles (テルネイレス)」副社長  
「林業における露日協力」  
河東哲夫 早稲田大学商学研究科大学院客員教授、東京財団上席研究員  
「日本とロシア極東との経済協力」  
伊奈久喜 日本経済新聞特別編集委員  
「極東における日ロ協力の現状と課題を概観する」

19:00~21:30 ウラジオストク側主催レセプション

9月21日(火) 「ウラジオストク・フォーラム(2010)」2日目

09:00~12:30

### 第3セッション：「太平洋におけるロシアと日本：地域間相互作用のベクトル」

共同議長：クリチン Y.N. ロシア科学アカデミー極東支部副会長、ロシア科学アカデミー準会員  
河東哲夫 早稲田大学商学研究科大学院客員教授、東京財団上席研究員

基調報告および副報告：

セルギエンコ V.I. ロシア科学アカデミー極東支部会長、ロシア科学アカデミー正会員  
「ロシア極東と日本の地域間学術・教育交流」  
サプリーキン V.G. ウラジオストク市役所国際関係・観光局局長  
「北東アジアにおける国際関係の中のウラジオスト

ク：過去、現在、未来」

布施裕之

読売新聞社調査研究本部主任研究員

「日本におけるロシアの“イメージ”」

原秀樹

国際交流基金日本研究・知的交流部、欧州・中東・アフリカチーム長

「国際交流基金対ロシア事業基本方針（2010年度）」

### 12:30～13:00 会議総括

共同議長：ラーリン V.L.

ロシア科学アカデミー極東支部歴史学研究所所長、歴史学博士、教授

袴田茂樹

安全保障問題研究会会長、青山学院大学教授

### 13:00～14:00 昼食

### 15:30～16:30 記者会見

### 19:00～21:00 山田淳・駐ウラジオストク日本国総領事主催レセプション

## ◎ 表敬訪問・意見交換会など

日本側代表団はウラジオストク滞在中、ゴルチャコフ沿海地方議会議長（於：沿海地方議会）、プシカリョフ・ウラジオストク市長（於：ウラジオストク市役所）をそれぞれ表敬訪問し、率直な意見交換を行った。その他、2012年のAPEC会場の視察なども行った。



ゴルチャコフ沿海地方議会議長との意見交換会、写真中央がゴルチャコフ氏



プシカリョフ・ウラジオストク市長

次回「フォーラム（2011）」の開催については、来年9月をめどに日本で開催することで、ロシア側と合意している。

最後になったが、この度のフォーラム開催にあたっては、安保研支援会員の皆さまから温かいご支援をいただいたほか、現地では山田淳・駐ウラジオストク日本国総領事をはじめとする総領事館の皆さまに多大なご協力をいただいた。この場をかりて、心より御礼申し上げます。

どうもありがとうございました。

**A**

（安保研事務局）